

などによっては応援必要数が変わるため、医師会及び医療機関との連携を密にし、更に検討していく必要がある。

### 9) 集団災害とトリアージ・・・トリアージの新しい考え方

本多 拓(新潟市民病院)  
救命救急センター

トリアージの意義は大災害等で負傷者が多数でた時にその中から、早く治療すべき人を適切に選び出す作業である。その際大切なのは(1)災害規模と対応する医療(救援)体制の比較を念頭に置かねばならない。即ち災害の内容、規模、搬送情報、医療機関の能力等の把握が必須で、それには行政、警察、救急隊等との情報交換が重要である。救急医療情報システムの活躍の場である。(2)多くの救急患者に接してそれぞれの重症度をみわけ

る日常的なトレーニングが必要である。その結果、患者の主訴、バイタルサインのみから、トリアージ担当者はそれぞれの五感、経験を駆使して、重症度、治療順を決めるのである。現実にはトリアージ実施上様々な困難が予想される。一人一人の生命の重さに順位を付けねばならない責任、パニックになった人間心理のコントロール等を考えると一層の冷静な判断が求められる。トリアージは災害の現場、救急車内、医療機関等々で数次にわたっておこなわれるべきだが、救急救命士が行う救急車内以外の場所でのトリアージのチーム構成は経験ある医師だけでなく、看護婦、情報収集その他雑務処理に慣れた事務系職員を含めた4～5名の体制が望ましいと考える。事情は刻々と変化するので、あくまで臨機応変の柔軟性が必要である。またトリアージの結果に完璧を期すと後悔とストレスが溜まり任務の継続に支障となるので、70%程度の達成度を目指す程度でよい。